

文京川柳会2月句会

2010・2・17 文京区民センター

二月句会は、見事に浅岡さん、平岡さんを迎え、話のテーマは「川柳の視点」。伝統的な客観的視点と表現から、明治以降の主観的視点への広がりを例句で迎りました。

課題は「政治」と、「男と女」でしたが、出来栄は後者が秀。寒い夜の会を互選互評で熱くなって帰りました。【笑優】

「政治」

支持さがり不支持が増える澤の鶴

尾藤 一泉選

あさじ

綱引きで決まる功労金の多寡
「密約」が明けて政治の闇が見え

文泉
牛歩

マニフェスト天の声にはお手をあげ
今野党 てのひら返し「金」攻める
政治より金と女に俺の道

栄七
牛歩
グレイト秀

今年こそ夫手当てを貰いたい
暗闇に赤く響いてまつりごと
傷む島不沈空母にして平気

三川
枇杷子
昭邑

互選互評「男と女」(数字は得票。印は一泉)

結局は男やんわり臀の下

牛歩

赤い糸だつたつもりが手綱とは
臍の緒が切れて繋がる赤い糸
賞味期限切れた同士の恋芽生え
引力の法則恋と勘違い

昭邑
栄七
あさじ

色褪せて夫婦の仲は中和せり
すれ違い話を聞かず地図読めず
心とは裏腹なことつい口に
カラオケに男と女全開し

三川
文泉
雅子
枇杷子

愛よりも好きだと言つてほしくなり
今怒りいつの間にか笑い声
私達あうんの呼吸 来世また
マジあるの 男と女の深い河

敏子
ちよ
グレイト秀

女男雑 未を楽しむ初節句
必然に乗りあう小舟漂わす

幻舟
雪

あさじさんの作品は、元々「澤(小沢)の鳩(鳩山)」として出すつもりだったそうですが「澤の鶴」と書き違つたために、庶民的な酒の気分が生じ赤提灯での政治論議を思わせる作品に。「澤の鳩」では、直接過ぎて「NG」。

題は作品の出来の善し悪しを左右し、「政治」は低調。それに比べ、「男と女」の方が、作者の気持ちに乗つた作品が生れ、読んでいても楽しかった。

牛歩さんの「やんわり臀の下」は、5人が2点に推薦、2人が1点で支持。女性を中心に票を集めていた。「やんわり」が利いたよう。

内容も含め、技術的に完成度の高いのが、「」を付けた作品。「男と女」の本質を掴み取る表現がよかった。

互評のひと言ひと言に、他者の作品を深く読み込む姿勢が見え始め、しっかりと理解して票を入れているように思えました。他者の批評は自作の進歩にも繋がるはずですよ。

